

不動産関連の比較検定  
サイト「リビンマッチ」  
を運営するリビン・テク  
ノロジーズ（東京都中央  
区、川合大無社長）は2  
月12日、「住まいの省エ  
ネ対策」についての調査  
結果をまとめた。

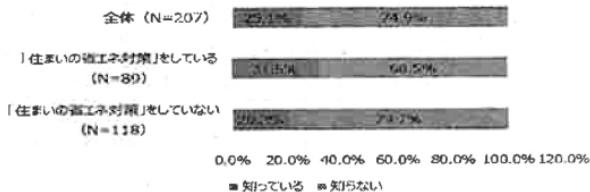
同サイトを利用した20歳  
以上の男女207人を対  
象に調べたところ、省エ  
ネ対策をしている人が43  
人（21・1%）、対策をわかつ  
た戸建てでは39・6%、  
集合住宅では3・4%だ  
った。

は、「初期費用がかかる」  
(50・0%)が半数を占  
めて、「どのくらい効果  
があるのかわからぬ」  
(69・7%)が最多だっ  
た。省エネ対策をしない人  
は、「初期費用がかかる」  
(33・1%)も一定の割  
合を占めた。「手間がか  
かる」(25・4%)も4  
人に1人となつた。20

# リビンマッチ調査

## 省エネ義務化知らない 「非適合物件は売りにくく」

2020年から新築住宅を建設する際、  
「省エネ基準」への適合が義務化されることを知っていますか？



D照明」(76・4%)で、「二重窓」(40・4%)と「節水シャワーへッド」(36・0%)、「太陽光発電」「断熱材」（共に31・5%）が続いた。ただ省エネ対策の効果を「とても感じる」(13・5%)は1割ほどにとどまり、「まあ感じる」(69・7%)が最多だった。

省エネ基準に適合しない住宅が「売りにくくなる」(55・1%)も半数超を占めた。20年から新築住宅を建設する際、「省エネ基準」への適合が義務化(300平方㍍以下の建物は省エネ基準義務化の対象外)を「知らない」が全体74・9%となり、省エネ対策をしていない人の場合79・7%に上つた。